





これから映画を見に行ってきた～す。どんな感動がまっているかな～？



みんなであったりとティータイム！宇治抹茶がおいしかった～。



14人の団体でボーリング大会。みんなで体を動かしました。



みんなノリノリ～♪で過ごした楽しかったカラオケタイム。また行きた～い。



ちょっと休憩タイム。次はどっちへ行こうかな？何かおいしい物があるかな？



楽しかった遠足もそろそろ帰る時間。楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。



長い間みんなが楽しみにしていた遠足で、先ごろオープンしたセブンパーク アリオ柏に行ってきた。今回の遠足では希望により、買い物班、カラオケ班、ボーリング班、映画班と4つの目的に分かれて行動する形の遠足となりました。初めてアリオにきた人も含め、皆さん目的を果たして満足そうな笑顔とともに帰路につきました。



ようやく楽しみにしていたお昼ご飯。外で食べるのはおいしい！



コンパクトな車体ですが車椅子が4台も乗れて使い勝手がとても良いです。そのため利用者さんが増えるなか、多様な送迎に対するニーズにお答えすることが出来、安全に運行することが出来ています。本当にありがとうございます。



日本財団様  
ありがとうございます。

柏南部という人々が温かい地域で歩んだ25年

《沿革・歴史》

#### ・昭和61年

松戸養護学校(現松戸特別支援学校)の卒業後の進路先の一つとして、また肢体不自由児者の通所の場として無認可作業所「緑の会」を発足。

#### ・平成3年12月

社会福祉法人格を取得。作業所の名称をそのまま引き継ぎ「社会福祉法人緑の会」とする。

#### ・平成4年10月

「身体障害者通所授産施設いずみ園」を開園

#### ・平成15年10月

千葉県から「重症心身障害児者通園事業B型」を新規に委託され事業名を「のぞみ」としスタートさせる。

#### ・平成15年10月

土日祝祭日の通所の場として、「身体障害者デイサービスさくら樹」、また学齢期の障害児支援として、「児童短期入所(日中預かり)たんぽぽ」を開始。

#### ・平成18年10月

障害者自立支援法施行に伴い身体障害者通所授産施設から「生活介護」に、身体障害者デイサービスから「地域活動支援センター」に、児童短期入所(日中預かり)から「日中一時支援事業」に事業を変更。

#### ・平成24年4月

制度改正に伴い重症心身障害児者通園事業B型が「生活介護事業」に変更。

#### ・平成25年4月

ケアプラン作成のための、「相談支援事業所いずみ園相談支援センター」を開始。

#### ・平成25年5月

共同生活援助(当時は共同生活介護)増尾台ウィズホームを開始。

#### ・平成25年7月

短期入所増尾台ウィズホームを開始。

#### ・平成26年3月

柏市の地域活動支援センターの補助基準の見直しにより地域活動支援センターを閉所。その代替として生活介護いずみ園を土曜祝祭日に拡張。現在に至る。



【皆様の支えこそあって……。】

いずみ園  
物がたり

# 一人ひとりが主人公

沢山の皆さんに支えられ、背中を押してもらえてるいずみ園のみんな。だから自分で力いっぱいキラッキラ光っています。



## 園芸活動

オクラやジャガイモ、大葉にインゲン、ラディッシュ、芽キャベツなどいろいろな種類の野菜を育てました。特にジャガイモは大量に取れたので収穫祭を試みみんなで食べました。



## 玉入れレクリエーション

職員の背負っている箱の中に玉を入れるゲームです。利用者さんの中には職員を狙っている人がいるかも？



## 散歩

気候の良い日はお散歩に行きます。この日は近くの公園でゆっくりと過ごしました。

いずみ園では、上の様な活動にご協力頂けるボランティアさんを募集中です。ご希望の方は一度お気軽にご参加ください。



## 七夕

この日は創作活動でみんなで製作したポスターの前で写真を撮りました。

## 書初め

新年最初のレク活動は書初めです。皆さん好きな言葉を自由に書かれていました。



## 節分

毎年2月ごろにいずみ園では鬼が出るので利用者さんで力を合わせて退治しました。



## アニマルセラピー

たくさんのわんちゃん達が遊びに来てくれました。とても優しいわんちゃんてみんな癒されていました。



## いずみ園喫茶

この日はゼリー作りでみんなでみかんゼリーを作りました。「美味しかった〜。」



## カラオケ

毎月行われる人気のレクで皆さん熱唱されています。利用者さんの中には前日に歌いたい曲を決める方もいらっしゃいます。

## 盆踊り

この日は地域の町会から太鼓を借りてみんなで盆踊りを行いました。この写真のポスターは夏休みに来てくれた中学生が一生懸命作ってくれました。

いずみ園相談支援センターが、4年が経ちました。一施設職員だった頃には知らなかった世界がそこにありました。一人ひとりの利用者様を思い、ご家族の思いの深さ、そこから現在と今後の人生をトータル的に考えてケアプランを作成していきます。また、緊急時には行政、医療、福祉、ほか様々な職種の方々や社会資源と連携



いずみ園相談支援センター  
森山 香苗

しての対応が必要です。それらの重要性を実感した色濃い4年間でした。今後でもご利用者様の笑顔に結び付けられるよう努力し、いずみ園自身を支える柱の一つになっていきたいと思っています。

いずみ園での看護師としての役割は、利用者の皆さんが、日々元気に安全に過ごせるようお手伝いすることだと考えています。ご自分から、体調の変化を訴えるのが難しい方が多くいらっしゃる中で、日々のわずかな変化などに気を配りながらかわっていきたいと思います。いずみ園が25周年を重



看護師  
内山 恵

利用者の方々も歳を重ねており、体調の変化にも注意する必要があります。考えています。日々パワフルないずみ園から私自身もパワーを頂いていることに感謝しつつ25周年おめでとうございます。



いずみ園の利用者さんを日々送迎して頂いたり、遠足などの外出時にルートを確認をして頂いています。また、新しい利用者さんの家の場所を確認するなど運転に関わるお仕事をお願いしています。いつも安全運転ありがとうございます。送迎運転手の皆さん

いずみ園25周年を迎えるにあたり、人と人との繋がりに感謝するとともに、日頃から支援して下さる皆様の支えがあるからこそ、いずみ園であると思っています。今ここにある現実を見落さず、より多くの利用者の皆様のニーズの充足、利用者の方々が住み慣れた地域の中で、自分らしく生活できる場が作れるよ



主任リーダー  
齋藤 裕美

う、様々な経験をしながら日々努力をしていきたいと思っています。まだまだ至らない点はあると思いますが、今後もうぞ宜しくお願い致します。

あったかで  
ほのぼのして  
笑顔があてきで  
やさしくって  
みんなのことが  
大好き。

### 職員紹介

そんな職員の皆さんが  
このいずみ園の今を  
築いてきてくれました。  
”みんなに感謝“

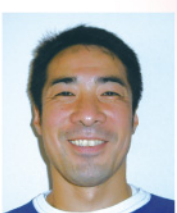
『どんなに重い障害があっても「何かができる」一人でもできなかったら「みんなで助け合う」そして多くの方々との交流を大切に、地域社会の中に生活の基盤を築いていきたい』という基本理念と共にいずみ園は始まりました。現在、政府は年齢や障害の有無に関わらず、お互いの人格や個性を尊重し合っ



主任  
田村 直子

社会づくりを目指しています。この25年間、地域の方との様々なかわりや利用者の方との毎日が共生社会実現の大切な一面と感じています。これからも微力ですが、努力してまいります。

共同生活援助事業所「増尾台ウィズホーム」が設立されてから4年が経過しました。必要とされるサービスは日々変化していき



ウィズホーム  
ホーム長  
齋藤 貴彦

活を維持していく為には現在の生活を職員・入居者・保護者が正確に理解する必要があります。これからの様々な方にご協力頂きながら笑顔多く一緒に過ごしていければと思います。



主任  
増渕 則子

が良く、丁寧な土作り、水やり、命への愛情が大きな実りをもたらしたのでないでしょうか。これからいずみ園の一日、ご招待頂いたじやがいも堀りとコロケの味、バザー等の思い出は、なかでも印象深いのは、ボランティアさんにご指導、ご協力をいただきながら園庭で夏野菜を育てた日々です。収穫は百個以上に。天候や土との相性



いずみ園で利用者さんに安心、安全をモットーに楽しく過ごして頂くとう日々頑張っている職員さん達です。みなさん個性的で様々な角度からアイデアを出し合っ

Our  
policy  
izumi-en

どんなに重い障害をもっている人も『何かができる』一人でできなかったら、みんなで助け合う』そして多くの方々との交流を大切にして地域社会の中に生活の基盤を築いていきたい。

私たちがいずみ園では創業から25周年の今日まで一貫してこの理念を胸に職員一同障害をもった人のために力の限りつとめております。これからも真つ直ぐに……。

### ケアホーム紹介

いずみ園ケアホーム

増尾台  
ウィズホーム



訪れる方を快く向い入れる素敵な玄関



駐車場も広々と確保し、便利な使い勝手が評判のウィズホーム外観

重度の障害を持つ青年たちが、「住み慣れた地域に暮らしたい」を実現したいと始まった「増尾台ウィズホーム」は、平成29年5月に4年を迎えました。

当初、入居者は親が待つ自宅とは違う環境に緊張感が見られ、ホームに入所してもなお心配する親たちの様子が見られました。が、今はわが子の自立生活への支援の声と安心感に変わりました。これからの課題として、重度障害者が安心して自立生活の場としてグループホームに住まうには、夜勤介護者の安定した確保が必要です。人材確保は、社会的な問題でもあります。また、福祉の現場にて安心、安全な暮らしを保つには、地域医療機関との連携も不可欠であります。これからの課題に向き合いながら研修会や地域社会との連携を深めて、重度障害者の自立生活をより豊かなものとし、この実践が次のグループホームへの糧になればと考えています。